

はじめに

日本では、諸外国に例を見ない速さで進む高齢化を背景に、高齢者のみならず、障害児・者を含む地域のすべての人々が、疾病や障害があっても、生活の質を維持し、可能な限り住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けられるように、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。

このような中、2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正では、「地域・在宅看護論」において、療養者を含めた地域で暮らす人々を対象ととらえ、その人々への理解とそこで行われる看護サービス、多職種連携を学ぶ必要性が強調され、単位数も増加しました。

そこで、第7版は、低学年での地域・在宅看護論の基盤の学習と対象の理解から、高学年でのより専門的な地域・在宅での看護サービスの修得まで、幅広く活用していただけることを目指しました。そして採用校の先生方のご意見を取り入れながら、これまで以上に次の点を充実させました。

1. 対象すなわち生活者である人々およびその家族への理解と、その人々の自助・互助の力を引き出すための理論や方法
2. 生活の場である地域を理解するためのアプローチ方法
3. ケアニーズを正しく把握し、看護サービスにつなげるための生活の場特有の知識・技術
4. 生活・療養支援に必要な地域包括ケアシステム構築のプロセス
5. 多職種連携ならびにケアチームにおける看護職の役割・機能
6. 将来の地域・在宅看護を考えるための国内外の先駆的な活動やトピックスの紹介

本書とともに、学修効果を高めるためのARを用いた映像、また、姉妹巻である『地域・在宅看護論②：在宅療養を支える技術』、ナーシング・グラフィカシリーズ他巻の関連領域へのリンクもご活用ください。

地域・在宅看護を取り巻く環境やその技術は、社会と連動しながら年々変化していくことでしょう。地域・在宅看護論を学ぶ皆さんが、変化に柔軟に対応し、多様な看護の場で、その実践能力を発揮できる看護職となられるよう、本書が学習の一助となれば幸いです。

編者一同